

第142期

Shionogi Business Report

平成18年4月1日～平成19年3月31日



塩野義製薬株式会社

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第142期（2006年度）の事業概況をご報告申し上げるにあたり、この間に株主の皆さまから賜りましたご協力、ご支援に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。



当期の国内医薬品業界におきましては、増大する医療費の抑制に向けての議論を背景に、昨年4月には、業界平均6.7%の薬価改定が実施されたほか、後発品の使用促進や医療費の包括化が強化されるなど、一層厳しい市場環境に推移しました。また、グローバル市場での販売、研究開発競争も一層激しさを増しており、国内医薬品企業は事業への集中化や統合、再編などの活動をさらに活発化させております。このような状況におきまして、当社グループは、製薬企業としての長期的な発展を目指す第二次中期経営計画（2005年4月～2010年3月）を策定し、2年目となります今年度も、その目標を実現するための取り組みを着実に進めてまいりました。

研究開発面では、本年度新たに3品目の上市と2品目の製造販売承認申請を実現したほか、開発中の品目も海外での開発品を含めて概ね順調にステージを進めております。一方、販売面では、一昨年発売した新製品を加えた抗菌薬領域におけるプレゼンスの拡大、がん疼痛からの解放・QOLの改善に向けての情報提供活動を一層強化してまいりました。また、今後の最重点品目であります高コレステロール血症治療薬「クレストール」につきましては、安全性監視計画に基づく1万例規模の使用成績調査をアストラゼネカ社とともに実施し、計画より6ヶ月前倒しで完了しました。現在、その有効性、安全性、経済性についての情報提供活動を通じて、マーケットシェアを着実に拡大しております。

しかしながら、国内医療用医薬品の市場環境が想定以上に厳しさを増している中で、計画していた業績目標を下回る結果となっていることから、第二次中期経営計画の目標数値を修正するとともに、残り3年間の活動の再強化を図るべく今後の取り組みについて見直しを行いました。修正した目標数値につきましては、現在の事業環境下では決して達成の容易な目標ではありませんが、その達成に向けて全社一丸となって取り組みを進めてまいります。また、この第二次中期経営計画の遂行を通じて、「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という当社の基本方針の具現化を図り、製薬企業としての存在感の向上に努めてまいり所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

塩野元三

◆シオノギの基本方針

「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」

◆シオノギの行動方針

シオノギの基本方針(シオノギの心)を、具現化するためのものです

ミッション

経営理念・ 企業理念

**患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、
患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い医薬品をお届けする**

私たちは基本方針に掲げる「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という理念に基づき、「患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い医薬品をお届けする」ことをミッションとし、以下の活動を通じてその具現化に専念します。

独創的な医薬品を創製し、必要としている人々に一刻も早くお届けします。

必要としている人々の声を速やかに製品に反映し、高い品質の医薬品を、安定的、経済的に製造・供給します。

適正使用に必要な情報を適時的確に提供し、医薬品の有用性をますます高めます。

ビジョン

中長期戦略・ 行動目標

**存在感のある強いシオノギ
私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ**

私たちは、私たちのミッション実現のため、世界中で患者・家族・医療従事者の方々と社会に認められる事業展開を行なう「存在感のある強いシオノギ」であるとともに、「私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ」であることを目指し、第2次中期経営計画を達成します。

バリュー

行動規範

顧客志向、信頼、プロフェッショナル、現場重視、個の尊重

私たちは、私たちのミッション、ビジョンを実現するために、上記の5つの点を最も重要な行動規範とすることを決意しました。

この5つの誓い(シオノギバリュー)を、高い倫理観をもって実行することにより、人々の共感を得る会社でありつづけたいと思います。

2007年度は5か年の第二次中期経営計画の折り返しの年度です。本年4月に、進捗状況の確認を踏まえて、最終年度(2009年度)の目標数値を修正するとともに、今後3年間の取り組みの再強化を図りました。

1. 第二次中期経営計画目標に対する進捗状況の確認

研究・開発の進捗状況

これまでに製造販売承認申請を完了した品目として、イルベサルタン(高血圧症治療薬)、ピルフェニドン(特発性肺線維症治療薬)があるほか、デュロキセチン(抗うつ薬・糖尿病性神経因性疼痛治療薬)やS-013420(感染症治療薬)の開発も順調に進捗しております。さらに、グローバルに開発を進めている品目として抗肥満薬、抗そう痒薬、HIV感染症治療薬があります。

また、導入活動も積極的に行い、世界的に新薬開発候補を生み出すのが困難になっている中、アダバレン(にきび治療薬)、ペラミビル(インフルエンザ治療薬)の導入を実現しました。

さらには、米国Purdue社および北海道大学との共同研究や、日本イーライリリー社とのデュロキセチンの共同開発・共同販売契約を結ぶなど、外部リソースの積極的な活用を意識した活動も展開してきました。

以上のとおり、研究・開発におきましては、当初意図した目標に向けて、ほぼ順調な進捗状況にあると考えております。

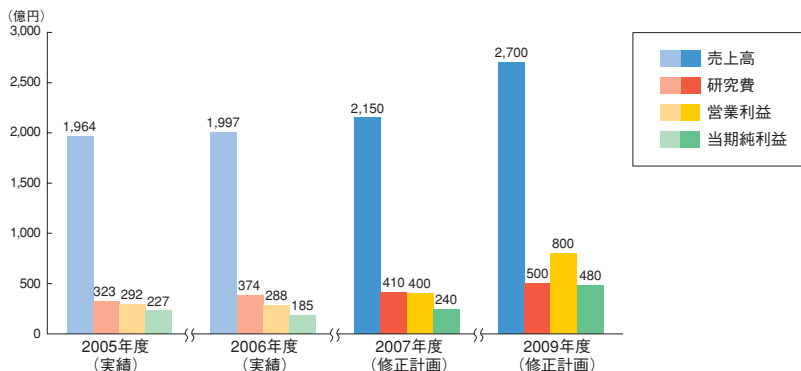
営業の進捗状況

第二次中期経営計画がスタートして以降、クレストール、フィニボックス、アベロックスという、これからのシオノギを支える新製品を発売いたしました。クレストールに関しましては、日本初のICH・E2Eガイドラインに沿った使用成績調査を集中的に実施、想定よりも前倒しで完了し、本格的な情報提供活動を早期にスタートさせることができました。

しかし、競争の激化やDPC(医療費の包括化)採用病院の増加、ジェネリック薬の拡大などの医療費抑制政策が進み、当初の想定以上に厳しい環境となり、エビデンス構築の遅れなどもあり、売上拡大が当初の想定どおりには進捗していない状況を踏まえ、今後3年間の取り組みについて見直しを行いました。

2. 業績目標（連結）の修正

過去2年間の活動状況およびシノギをとりまく環境変化等を考慮して、2007年度および第二次中期経営計画最終年度（2009年度）の目標数字を以下の通り修正しました。



3. 今年度からの取り組み

第二次中期経営計画後半の2007年度からの3年間は、以下の通り取り組んでいきます。

- 研究・開発活動では、グローバルに通用する新薬を継続的に創製し開発するための体制を強化していきます。

そのため、今年4月から医薬研究本部と医薬開発本部に分け、それぞれが「グローバルに通用する新薬を継続的に創製」するためのシーズ探索と「日米欧3極で複数の自社創製品を同時開発」するための組織体制の整備・人材の育成、戦略的なアライアンスに注力していきます。

- 営業活動では、クレストール、フィニバックス、アベロックス等の新製品を中心とした戦略品目へリソースを集中しシェア拡大に努めます。

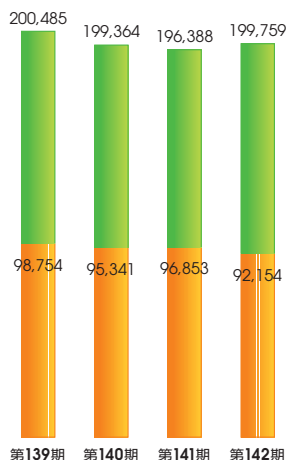
また、市場構造を勘案し特定機能病院への取り組みを強化していくと共に、現場に密着したマーケティングプラン推進者を設置するなど、組織的な営業活動の強化を図っていきます。

さらには、4月に設立した「がん疼痛克服推進部」を通じて、がん疼痛治療の普及・拡大に努めていきます。

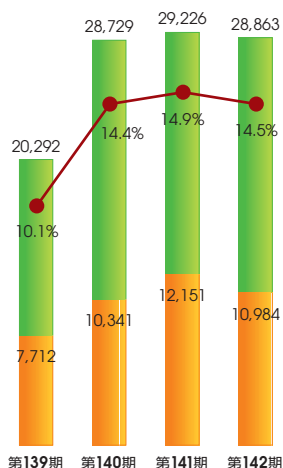
- 将来の飛躍に向けて、戦略的な投資活動を積極的に行っていきます。具体的には創薬シーズ探索の強化や積極的なインライセンス、海外展開のための体制整備に加え、製造、研究開発への設備投資など、今後3年間で600億円超の投資を行っていく予定です。

Financial Highlights 連結財務指標

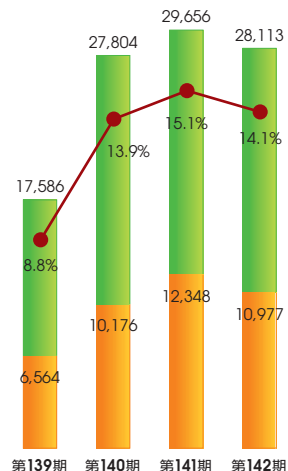
売上高



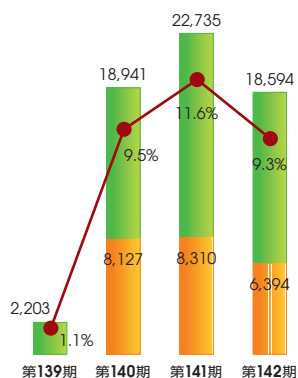
営業利益



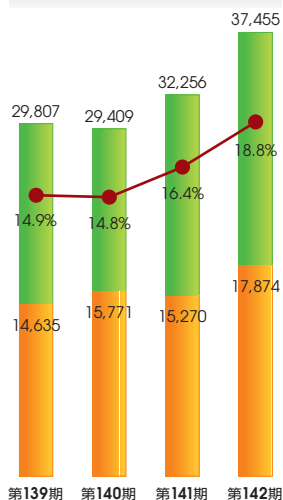
経常利益



当期純利益



研究開発費



単位：百万円

■ 年間

■ 中間

● 売上高に対する比率

営業の概況

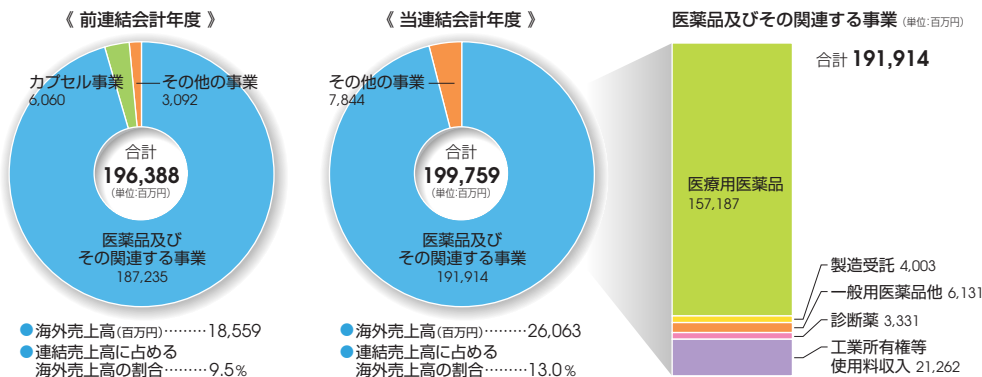
主力の医療用医薬品の売上が薬価改定や抗生物質市場縮小の影響に加えて新製品の販売拡大計画が目標を下回ったことなどにより減少となり、一方、工業所有権等使用料収入は大きく増加しました。また、前期におきまして上期にカプセル事業の売が含まれていることもあり、全体の**売上高**は1,997億5千9百万円で前期に比べ1.7%の増加となりました。

医薬品及びその関連する事業では、医療用医薬品におきまして、「クレストール」、カルバペネム系抗生物質「フィニバックス」、ニューキノロン系抗菌剤「アベロックス」は売上を伸ばしましたが、既存品については抗生物質中心に薬価改定や市場の縮小などの影響から売上が減少となり、医療用医薬品全体の売上も減少となりました。また、一般用医薬品、診断薬の売上も市場競争の激化から減少しました。一方、製造受託はグループ外からの受託の増加により売上が増加し、工業所有権等使用料収入も大幅に増加いたしました。この結果、「**医薬品及びその関連する事業**」全体の売上高は1,919億1千4百万円で前期に比べ2.5%の増加となりました。

その他の事業の売上高は78億4千4百万円で、前期比153.7%の増加となりました。これは、シオノギエンジニアリングサービス(株)において工事受託の増加があったためです。なお、カプセル事業は、事業売却に伴い、前年下期より連結から除外されております。

利益面におきましては、工業所有権等使用料収入の増加に加えて、製造原価の低減努力による原価率の改善効果が薬価改定によるマイナス要因を軽減しましたが、研究開発の順調な進捗から研究開発費が前期に比べて16.1%の増加となったことから、営業利益は288億6千3百万円で前期に比べて1.2%の減少、経常利益も281億1千3百万円で前期に比べ5.2%の減少となりました。なお、前期にカプセル事業売却による特別利益があったことから、当期純利益は185億9千4百万円で前期に比べ18.2%の減少となりました。

◆セグメント別売上



研究開発の状況について

研究開発活動の状況につきましては、本年度におきまして、早発排卵防止薬「セトロタイド」、がん疼痛治療用散剤「オキノーム散」などを上市したほか、高血圧症治療薬（一般名：イルベサルタン）、特発性肺線維症治療薬（一般名：ビルフェニドン）の製造販売承認申請を行いました。この他、現在、抗うつ薬、抗菌薬、抗肥満薬、抗そう痒薬などの薬剤の開発を進めており、特に、抗肥満薬、抗そう痒薬につきましては、シオノギUSA,INC.を拠点としてグローバルに開発を進めております。また、欧米諸国をテリトリーとして導出しておりますカルバペネム系抗生物質（一般名：ドリベネム）につきましては、ジョンソン・エンド・ジョンソン社によりまして米国での製造承認申請が行われております。なお、昨年10月に、当社と北海道大学は、両者の研究交流を促進するため共同研究施設を設立することに合意し、本年6月に着工しております。この取り組みを通じて、同大学の持つ糖鎖基盤技術やタンパク質構造解析技術などについての共同研究が促進され、創薬基盤技術の向上と、さらなる創薬シーズの発見に貢献できるものと考えております。

こうした活動の結果、当期における当社グループ全体の研究開発費は374億5千5百万円となり、売上高に対する比率は18.8%となりました。

◆新製品

2006年6月 発売	フィニバックスキット	カルバペネム系抗生物質
2006年9月 発売	セトロタイド	体外受精／胚移植施行時における早発排卵防止薬
2007年2月 発売	オキノーム散	癌疼痛治療薬

◆新薬開発状況（平成19年5月現在）

● 国内開発品 ● 海外開発品

承認申請中	● SCH29851 ● SR47436 ● S-7701	アレルギー性疾患治療薬 高血圧症治療薬 特発性肺線維症治療薬
フェーズⅢ	● LY248686	抗うつ薬
フェーズⅢ準備中	● LY248686	糖尿病性神経因性疼痛治療薬
フェーズⅡ	● S-2367 ● S-0139 ● NS75A ● S-013420 ● NS75B ● S-364735	抗肥満薬 脳血管障害治療薬 子宮筋腫治療薬 新規マクロライド系抗生物質（経口） 前立腺肥大症治療薬 HIV感染症治療薬
フェーズⅠ	● S-777469	抗そう痒薬
フェーズⅠ準備中	● ペラミビル	インフルエンザ感染症治療薬

「ペラミビル」のライセンス契約を締結

シオノギはバイオクリスト社 (BioCryst Pharmaceuticals, Inc. 本社：米国アラバマ州) と、「ペラミビル (Peramivir)」を日本においてインフルエンザウイルス感染症の治療領域で独占的に開発し、商業化する権利を取得するライセンス契約を締結したことを2007年3月に発表しました。

「ペラミビル」は、バイオクリスト社が米国を中心に開発中の抗インフルエンザウイルス剤（ノイラミニダーゼ阻害剤）で、A型およびB型だけでなく高病原性鳥インフルエンザウイルスにも活性を示すことが見込まれます。

感染症領域は、シオノギが長きに亘り注力している領域で、第二次中期経営計画の重点3領域の1つでもあります。今回の「ペラミビル」の導入はシオノギの感染症領域の強化とともに、更なる治療選択肢を求められているインフルエンザウイルス感染症治療において貢献できるものと期待されます。



シオノギ・堀野社長(左)とバイオクリスト社・ストーンハウスCEO(右)

シオノギ創薬イノベーションコンペ (FINDS) を開始



シオノギ創薬イノベーションコンペ
Pharma-INnovation Discovery
competition Shionogi

シオノギ創薬イノベーションコンペ (FINDS : **PH**arma-**IN**novation **D**iscovery competition **S**hionogi) の公募を開始しました。

FINDSは、シオノギが必要とするニーズを提示し、独創的なシーズを持つ日本国内の研究者の皆様からアイデアをご提供いただき、実用化に向けて共に研究を進めて行こうとする産学連携の取り組みです。

FINDSを通じて、創薬シーズや基盤技術の収集、探索を強化し、グローバルに貢献できる新薬の継続的な創製に取り組んでいきます。

概要

1. 募集期間：2007年5月14日から6月29日
2. 募集内容：12課題
3. 選考方法：第1次審査、第2次審査の2段階で実施。
 - ・第1次審査：HPより応募いただいた中から30～50件程度に絞る。
 - ・第2次審査：必要に応じて秘密保持契約書を締結し、詳細な研究計画を書面で提出いただき、10件程度を採択する。
4. 選考基準：弊社ニーズとのマッチング、研究の独創性、合理性、産業化の可能性及び弊社プロジェクトとのコンフリクトなどを鑑み決定する。
5. 研究費：1件あたり200～500万円を予定。



その種は、きっと大きな実を結ぶ。

設備投資について

当期における当社グループ全体の設備投資額は総額 111 億円で、製造設備の増強や、研究設備の拡充などが中心となっております。

利益配分について

当社は、中長期的な視点での企業価値増大を図るため、事業投資を積極的に行うとともに、配当につきましては、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを安定的に向上させることを目指しております。内部留保資金につきましては、新製品の開発に関する研究開発投資等、将来の事業展開に向けた資金需要を中心として充当してまいります。なお、今後の配当性向につきましては、2009 年度の指標として35%（連結配当性向）を目標といたします。

● 当期、次期の配当金について ●

当期の期末配当金につきましては、1株当たり8円とさせて頂き、お支払いは6月29日から開始させて頂きます。

これにより、中間配当を合わせた年間配当金は、1株当たり16円となります。

次期の年間配当金につきましては、4円増額の1株当たり20円を予定しております。

連結 連結損益計算書

	第142期 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	第141期 平成17年4月1日～ 平成18年3月31日	増減額
科 目	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
売上高	199,759	196,388	3,371
売上原価	67,542	68,707	△ 1,165
売上総利益	132,216	127,681	4,535
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	103,353 (37,455)	98,455 (32,256)	4,898 (5,199)
営業利益	28,863	29,226	△ 363
営業外収益	3,368	3,440	△ 72
受取利息	1,141	713	428
受取配当金	661	541	120
不動産等賃貸料	597	598	△ 1
為替差益	58	841	△ 783
その他	909	745	164
営業外費用	4,118	3,010	1,108
支払利息	95	128	△ 33
寄付金	1,272	1,066	206
たな卸資産処分損	1,057	536	521
固定資産処分損	558	387	171
その他	1,134	892	242
経常利益	28,113	29,656	△ 1,543
特別利益	3,610	10,647	△ 7,037
投資有価証券交換益	2,765	—	2,765
過年度共同開発費戻入益	657	—	657
投資有価証券売却益	186	3,053	△ 2,867
カプセル事業売却益	—	7,452	△ 7,452
固定資産売却益	—	140	△ 140
貸倒引当金戻入益	—	1	△ 1
特別損失	—	1,505	△ 1,505
減損損失	—	936	△ 936
固定資産処分損	—	568	△ 568
税金等調整前当期純利益	31,723	38,798	△ 7,075
法人税、住民税及び事業税	8,702	16,890	△ 8,188
法人税等調整額	4,387	△ 861	5,248
少数株主利益 (△)	△ 39	△ 33	△ 6
当期純利益	18,594	22,735	△ 4,141

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

連結 連結貸借対照表

	第142期 平成19年3月31日	第141期 平成18年3月31日	増減額
科 目	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
【資産の部】			
流動資産	208,890	208,327	563
現金及び預金	86,853	90,652	△ 3,799
受取手形及び売掛金	67,575	69,912	△ 2,337
たな卸資産	32,395	27,184	5,211
繰延税金資産	5,325	6,321	△ 996
その他	16,753	14,269	2,484
貸倒引当金	△ 12	△ 13	1
固定資産	220,679	219,355	1,324
有形固定資産	67,815	64,251	3,564
建物及び構築物	31,142	30,759	383
機械装置及び運搬具	10,837	9,899	938
土地	14,812	14,805	7
建設仮勘定	5,172	3,601	1,571
その他	5,850	5,184	666
無形固定資産	6,135	7,131	△ 996
投資その他の資産	146,728	147,972	△ 1,244
投資有価証券	123,368	129,037	△ 5,669
前払年金費用	20,168	15,360	4,808
繰延税金資産	49	50	△ 1
その他	3,310	3,686	△ 376
貸倒引当金	△ 168	△ 162	△ 6
資産合計	429,569	427,682	1,887

(注) 有形固定資産の減価償却累計額

161,459百万円

158,513百万円

連結 連結貸借対照表

	第142期 平成19年3月31日	第141期 平成18年3月31日	増減額
科 目	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
【負債の部】			
流動負債	47,535	51,877	△ 4,342
支払手形及び買掛金	12,189	10,227	1,962
未払法人税等	7,563	12,209	△ 4,646
引当金			
賞与引当金	5,958	7,482	△ 1,524
その他の引当金	1,088	1,187	△ 99
その他	20,735	20,771	△ 36
固定負債	36,281	38,371	△ 2,090
繰延税金負債	24,698	23,276	1,422
引当金			
退職給付引当金	8,352	8,318	34
その他の引当金	185	240	△ 55
長期未払金	2,066	5,569	△ 3,503
その他	978	965	13
負債合計	83,817	90,249	△ 6,432
【少数株主持分】			
少数株主持分	—	247	—
【資本の部】			
資本金	—	21,279	—
資本剰余金	—	20,227	—
利益剰余金	—	266,469	—
その他有価証券評価差額金	—	38,116	—
為替換算調整勘定	—	△ 156	—
自己株式	—	△ 8,750	—
資本合計	—	337,185	—
負債、少数株主持分及び資本合計	—	427,682	—
【純資産の部】			
株主資本	311,289	—	—
資本金	21,279	—	—
資本剰余金	20,227	—	—
利益剰余金	278,871	—	—
自己株式	△ 9,088	—	—
評価・換算差額等	34,178	—	—
その他有価証券評価差額金	34,262	—	—
為替換算調整勘定	△ 83	—	—
少数株主持分	283	—	—
純資産合計	345,752	—	—
負債純資産合計	429,569	—	—

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

【単体】貸借対照表

(平成 19 年 3 月 31 日)

科 目	金 額 (百万円)
【資産の部】	
流動資産	198,922
現金及び預金	78,951
受取手形	218
売掛金	65,258
有価証券	4,027
たな卸資産	29,945
その他	20,527
貸倒引当金	△ 7
固定資産	216,070
有形固定資産	55,454
建物	25,985
その他	29,469
無形固定資産	5,757
投資その他の資産	154,858
投資有価証券	126,187
その他	28,839
貸倒引当金	△ 168
資産合計	414,992

科 目	金 額 (百万円)
【負債の部】	
流動負債	40,841
買掛金	10,026
賞与引当金	5,694
その他の引当金	1,018
その他	24,102
固定負債	33,803
繰延税金負債	24,601
退職給付引当金	8,310
その他の引当金	185
その他	706
負債合計	74,645
【純資産の部】	
株主資本	306,083
資本金	21,279
資本剰余金	20,227
利益剰余金	273,665
自己株式	△ 9,088
評価・換算差額等	34,262
純資産合計	340,346
負債純資産合計	414,992

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております 2. 有形固定資産の減価償却累計額 153,518百万円

【単体】損益計算書

(平成 18 年 4 月 1 日～
平成 19 年 3 月 31 日)

科 目	金 額 (百万円)
売上高	185,686
売上原価	59,382
売上総利益	126,304
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	101,411 (37,409)
営業利益	24,893
営業外収益	4,925
営業外費用	3,833
経常利益	25,985
特別利益	3,610
特別損失	386
税引前当期純利益	29,209
法人税、住民税及び事業税	7,370
法人税等調整額	4,514
当期純利益	17,324

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております

◆連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

科 目	第142期 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	第141期 平成17年4月1日～ 平成18年3月31日
税金等調整前当期純利益	31,723	38,798
減価償却費	8,797	8,652
資産・負債増減等	△12,983	△16,861
法人税等の支払額	△13,423	△13,704
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,115	16,885
定期預金の払戻・預入等	6,242	△4,650
有形固定資産の取得・売却等	△12,803	△9,518
投資有価証券の取得・売却等	△1,860	△16,604
資金貸付けの回収による収入	3	3
連結範囲の変更を伴う 子会社株式の売却収入	—	18,722
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,418	△12,047
配当金の支払額	△6,122	△4,675
借入・返済等	△1,058	△20,120
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,180	△24,796
現金及び現金同等物に係る換算差額	△113	358
現金及び現金同等物の増減額	△1,596	△19,600
現金及び現金同等物の期首残高	76,142	95,719
非連結子会社を合併したことに伴う 現金及び現金同等物増加額	—	23
現金及び現金同等物の期末残高	74,546	76,142

◆次期の見通し

連結	
売 上 高	2,150億円 (前期比 7.6%増)
営 業 利 益	400億円 (前期比 38.6%増)
経 常 利 益	400億円 (前期比 42.3%増)
当期純利益	240億円 (前期比 29.1%増)
単 体	
売 上 高	2,020億円 (前期比 8.8%増)
営 業 利 益	370億円 (前期比 48.6%増)
経 常 利 益	385億円 (前期比 48.2%増)
当期純利益	230億円 (前期比 32.8%増)

キャッシュ・フローの状況

当期の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、たな卸資産の増加などがあり、前期に比べ27億7千万円少ない141億1千5百万円のプラスとなりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、製造設備への投資などを中心に、84億1千8百万円のマイナスとなりました。

また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、配当金の支払などにより、71億8千万円のマイナスとなりました。

この結果、当期末の「現金及び現金同等物の期末残高」は、前期末に比べ15億9千6百万円少ない745億4千6百万円となりました。

次期の見通し

主力の医療用医薬品市場におきましては、医療費抑制の議論を背景に、より一層厳しい販売環境に推移するものと予想されますが、「クレストール」を中心とした販売の拡大、また工業所有権等使用料収入の増加も引き続き期待されることから、全体としましても増収を見込んでおります。利益面では、研究開発費などの費用の増加が予想されますが、販売の増加や工業所有権等使用料収入の増加により吸収し、営業利益、経常利益、当期純利益ともに増益を見込んでおります。

企業広告 (SONG for you!) を改訂

2007年4月から新しい企業広告に改訂し、4月7日の「ミュージックフェア21」から放映を開始しました。「薬は“癒し”である」というコンセプトを表現した「SONG for you!」のロゴ・コピーを継続し、一貫した企業ポリシーを表現しています。

また、シオノギの重点領域の一つである「がん疼痛治療」をテーマに取り上げることにより、実際の会社の業務展開などの理解向上にも結びつけられるような内容に発展させています。



シオノギ製薬
<http://www.shionogi.co.jp/>

SONG
for you!

シオノギには、SONGがあります。

歌があなたを笑顔にするように、
薬だってあなたを笑顔にしたい。

私たちは、そんな気持ちで
患者さんの痛みをとる治療の普及にも
取り組んでいます。

病気を治すだけじゃない。
もっと、人を笑顔にできる薬をめざして。

SONG FOR YOU

シオノギです。

私たちは、「がんの痛みをとる治療」の普及に積極的に取り組んでいます。

CM音楽:「Smile」(歌唱:白鳥マイカ)

「がん疼痛克服推進部」を創設

平成19年4月1日から、日本のどこでも高度ながん治療を受けられる体制の実現を目指す「がん対策基本法」が施行されました。新法には、患者さまの心身の痛みを取り除く緩和ケアについても「患者の状況に応じて早期から適切に行われるようにする」と定められています。

この「がん対策基本法」の施行にあわせ、4月より新組織として「がん疼痛克服推進部」を創設し、日本における治療初期からのがん疼痛治療の普及に努めてまいります。患者さまの心身の痛みを取り除き、治療に前向きに取り組んでいただける環境を目指して、啓発活動等を積極的に進めて行きます。

SHIONOGI MUSIC FAIR 21

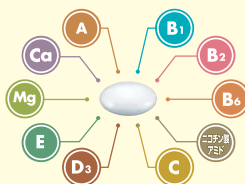
『シオノギ・ミュージックフェア』は、1964年にスタート以来43年目の長寿番組です。番組では毎週様々なジャンルのゲストを迎え、最高の音響効果、照明、セット、雰囲気の中で、一流の歌手による素敵な歌をじっくりと味わっていただくことをモットーに、常に変わらない姿勢で番組を提供しています。



司会：鈴木 杏樹／恵 俊彰
毎週土曜日 18:00～18:30 フジテレビ系にて放映

マルチビタミン、 バランスいいです ポポンS。

ポポンSは、現代生活に不足しがちな8つのビタミンと2つのミネラル（カルシウム・マグネシウム）をバランスよく配合した総合ビタミン剤です。毎日の元気・健康維持にぜひお役立て下さい。



®・登録商標 医薬部外品

テレビ
CM



出演タレントは佐藤弘道さん(2005年12月から)

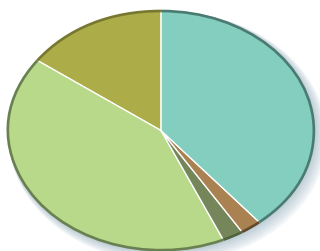
◆株式の状況

- 発行可能株式総数 1,000,000,000株
- 発行済株式総数 351,136,165株
- 株主数 21,516名
- 株主1人当たり平均持株数 16,320株
- 大株主

氏名 又は 名称	所有株式数 (単位：千株)	出資比率 (%)
1 住友生命保険相互会社	18,604	5.30
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,916	4.53
3 ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー	13,578	3.87
4 日本生命保険相互会社	13,138	3.74
5 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,357	3.52
6 ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	12,222	3.48
7 ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	12,160	3.46
8 塩野義製薬株式会社	10,683	3.04
9 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・三井住友銀行退職給付信託口)	9,485	2.70
10 ジーピーモルガンチエース オツペンハイマー フアンズ ジャスデック アカUNT	8,216	2.34

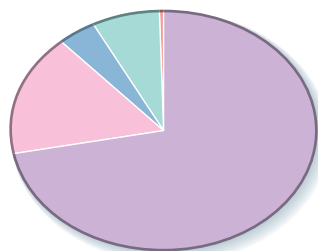
◆株式の分布状況

< 所有者別株式分布 >



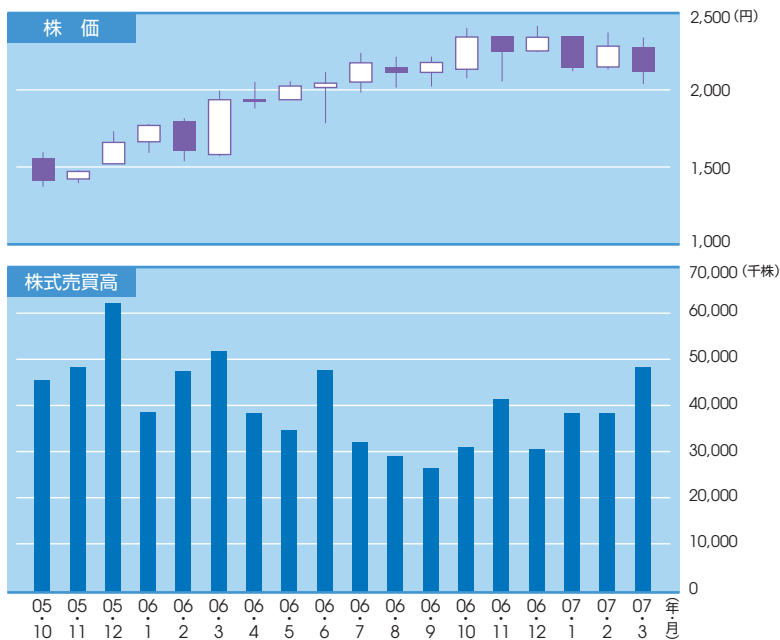
金融機関	38.10%
証券会社	2.23%
その他の法人	2.09%
外国法人等	42.82%
個人その他	14.76%

< 所有数別株式分布 >



1,000千株以上	71.01%
100千株以上	17.08%
10千株以上	4.50%
1千株以上	6.98%
1千株未満	0.43%

◆株価および株式売買高の推移



概要

会社の概要 (平成19年3月31日現在)

商 号	塩野義製薬株式会社 (SHIONOGI & CO.,LTD.)
創 業	1878年(明治11年)3月17日
会社設立	1919年(大正8年)6月5日
決 算 期	3月31日
事業内容	医薬品、診断薬などの製造・販売
資 本 金	212億79百万円
従業員数	4,300名



<http://www.shionogi.co.jp/>

役員 (平成19年6月28日現在)

取締役

代表取締役 会 長	宮 本 梨
代表取締役 社 長	塩 野 元 三
取 締 役	手 代 木 功
取 締 役	戸 梶 幸 夫
取 締 役	三 野 泰 宏

監査役

常勤監査役	大 谷 光 昭
常勤監査役	小 松 聰 司
監 査 役	浦 上 敏 臣
監 査 役	永 田 武 全

(注) 監査役 浦上敏臣 及び 監査役 永田武全は、
会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

執行役員

専務執行役員	手 代 木 功
常務執行役員	戸 梶 幸 夫
常務執行役員	三 野 泰 宏
常務執行役員	福 田 卓 雄
常務執行役員	久 米 龍 一
執 行 役 員	近 藤 裕 郷
執 行 役 員	藤 井 一 義
執 行 役 員	山 田 憲 生
執 行 役 員	前 田 均
執 行 役 員	納 田 敬 一 朗
執 行 役 員	澤 田 拓 子

事業所

本 社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
TEL 06-6202-2161

支 店

東 京 支 店

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号
シオノギ渋谷ビル
TEL 03-3406-8111

名 古 屋 支 店

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目9番地
スカイオアシス栄
TEL 052-957-8271

福 岡 支 店

〒810-0072 福岡市中央区長浜1丁目1番35号
新KBCビル
TEL 092-737-7750

札 幌 支 店

〒064-0807 札幌市中央区南七条西1丁目13番地
第3弘安ビル
TEL 011-530-0360

研 究 所

中 央 研 究 所

〒553-0002 大阪市福島区鷺州5丁目12番4号
TEL 06-6458-5861

新 薬 研 究 所

〒561-0825 豊中市二葉町3丁目1番1号
TEL 06-6331-8081

医 科 学 研 究 所

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
TEL 06-6382-2612

油日ラボラトリーズ

〒520-3423 甲賀市甲賀町五反田1405番地
TEL 0748-88-3281

工 場

摂 津 工 場

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
TEL 06-6381-7341

金 ヶ 崎 工 場

〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山7番地
TEL 0197-44-5121

事 業 所

杭 瀬 事 業 所

〒660-0813 尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号
TEL 06-6401-1221

物流センター

シオノギ物流センター

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
TEL 06-6381-7342

シオノギ東京物流センター

〒270-0233 野田市船形字上原壱1513番地
中央運輸株式会社 野田営業所内
TEL 04-7127-3000

海 外 (事業所・関係会社)

Shionogi & Co., Ltd.

Taipei Office

Transworld Commercial Center 4F,
No.2, Sec.2, Nanking E. Road
10408,

Taipei, Taiwan, R.O.C.

Tel: 02-2551-6336

Taiwan Shionogi & Co., Ltd.

Transworld Commercial Center 4F,
No.2, Sec.2, Nanking E. Road
10408,

Taipei, Taiwan, R.O.C.

Tel: 02-2551-6336

Shionogi USA, Inc.

100 Campus Drive, Florham Park,
NJ 07932, U.S.A.

Tel: 973-966-6900

株主メモ

◇ 決 算 期	3月31日
◇ 定時株主総会	6月
同総会権利行使 株 主 確 定 日	3月31日
◇ 期末配当金受領 株 主 確 定 日	3月31日
中間配当金受領 株 主 確 定 日	9月30日
◇ 単 元 株 式 数	1,000株
◇ 公 告 掲 載 方 法	電子公告 当社インターネットホームページ(http://www.shionogi.co.jp/)に掲載しています。
◇ 上場証券取引所	大阪・東京
◇ 証 券 コ ー ド	4507
◇ 株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社 大阪市中央区北浜4丁目5番33号
同 事務取扱場所	住友信託銀行株式会社 証券代行部 大阪市中央区北浜4丁目5番33号
同 郵便物送付先・ 電話 照 会 先	住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1番10 〒183-8701 電話：(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店

◆各種諸届について

住所、届出印、法人株主の代表者、役職名、氏名、商号、配当金の振込口座の変更、および単元未満株式の買取請求は、住友信託銀行 全国各支店にて所定の用紙でお申し込みください。ただし、証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

◆単元未満株式の買取について

単元未満株式(1株～999株で、登録株(名簿上の株式)を含む)の1株当たりの買取価格は、住友信託銀行の窓口にご請求があった日の大阪証券取引所の最終価格となります。

* ご請求日に大阪証券取引所で売買取引がなかったときは、東京証券取引所の最終株価となります。

* また、買取代金から予め定めております手数料を徴収させていただきますのでご了承ください。

◆株券を喪失されたときの諸手続きについて

お手持の株券を盗難、紛失、焼失などにより喪失された場合の諸手続きは、上記株主名簿管理人にてお受けいたします。